



Title	政治談話における他称のレトリックストラテジー : 日韓の街頭演説にみられる使用を中心に
Author(s)	韓, 娥凜
Citation	待兼山論叢. 日本学篇. 2014, 48, p. 101-119
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/56623
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

政治談話における他称のレトリックストラテジー

——日韓の街頭演説にみられる使用を中心に——

韓 娥 凜

キーワード：政治談話／談話分析／日韓対照／他称

1. はじめに

政治家の「ことば」は大衆とコミュニケーションを行い、リーダーシップを表すため、欠かせない道具である。Denton（1982）では、政治コミュニケーションの効果は、人間が行う相互作用の一つであるレトリックから成り立つと指摘している。政治家のレトリックから生み出されるリーダーシップは、我々が生きている社会を引っ張っていく原動力となり、また、国民からの評価に影響を与える要素にもなりうる。したがって、政治家の談話は、より効果的に国民受けを狙うため選択されたことばで構成されており、その政治的言語活動が行われる場面、状況などの社会的コンテキストによって明示的または暗示的に私たちに発せられる。

本研究では、日本と韓国の政治談話に注目し、両国の政治家がことばを用いていかにコミュニケーションを行おうとするのか、その戦略を明らかにする。このように日本と韓国の政治談話を対照することにより、政治言語の普遍的な特徴を探るとともに両国における相違点についても考察できると予想される。

まず、2節では本研究の目的について、3節では調査の概要、4節と5節では分析の結果と考察を行う。6節は本稿のまとめである。

2. 「他称」の位置づけ

本稿では、街頭演説の場面における他称のストラテジーに注目する。他称は、話し手自身を指し示す自称と聞き手を指し示す対称とともに人称詞の一つであり、話し手と聞き手以外の第三者の話題人物を指示することばである。

三輪（2000）、林・深見（2004）などの研究では、このような他称を「他称詞」とし、第三者に言及する場面における待遇や敬語と結びつけて考察を行っている。他称の項目としては、「彼」「彼女」のような三人称代名詞、「母」「父」のような親族名称や「先生」「社長」などの地位名称、「コ・ソ・ア」のような指示詞を用いた指示詞型などが主に挙げられる。他称は直接呼びかけたり、自分を指し示したりする対称・自称表現とは異なり、話題にのぼる第三者を指示対象とするため、発話参加者同士の関係調節や待遇度とは深く関わらない傾向がある。そのため、他称に関する研究は自称・対称ほど盛んではなかった。

一方、鄭（2002）、林・深見（2004）、高木・宋（2012）では、日韓や日中韓のように異なる国における他称の使用について対照分析を行った。これらの先行研究で扱った日韓共通の他称の項目としては、三人称代名詞の単数・複数、親族名称、地位名称、名前、指示詞型などその類型は様々であった。

しかし、本稿で扱う政治談話の場合、従来の先行研究で挙げられてきた他称だけではなく、政治家が所属している政党名なども用いられる。したがって、「政治家が自分と聴衆以外の人をどのように言及するのか」に注目し、その表現を「他称」として扱う。また、談話の中で他称がいかに戦略的に用いられるのかについて考察することが本研究の目的である。

3. 調査の概要

3.1. 分析データ

今回の分析で用いた街頭演説データは、大阪市長選挙とソウル市長選挙（2011年の10月から11月の間）、衆議院選挙と大統領選挙（2012年11月から12月の間）の際に現場で収録したものである。日韓共に5人の政治家の演説を扱っており、3

表1 街頭演説データの談話情報

	演説者ID	収録時間	発話数	選挙情報	備考
日本	JMA	0:15:07	100	大阪市長選挙	立候補者本人
	JMB	0:11:42	108		候補者応援演説
	JMC	0:13:45	153		候補者応援演説
	JMD	0:12:17	178	衆議院選挙	候補者応援演説
	JME	0:20:19	262		候補者応援演説
韓国	KMA	0:15:13	202	ソウル市長選挙	立候補者本人
	KMB	0:08:55	67		候補者応援演説
	KFC	0:10:39	175	大統領選挙	立候補者本人
	KMD	0:17:33	181		立候補者本人
	KFE	0:18:58	139		立候補者本人

(J:日本、K:韓国、M/F:性別、A-E:演説者ID)

つは市長選挙、2つはそれぞれ衆議院選挙と大統領選挙の演説である。この中でJMDとJMEは次期総理大臣を目指す政治家であり、KMDとKFEは大統領選挙に出馬した有力候補であった。また、JMDとKMDは与党、JMEとKFEは野党の党首であり、互いに対立する立場であるという条件も揃えた。

次に、演説の性格をみると、立候補者本人の演説か応援演説かによって2つに分けられる。いずれの演説も有権者である聴衆を聞き手として想定しており、相手に自分の意見を効果的に伝えようとする目的は同じであるため、「他称」の使用に大きな影響を与える要因ではないと思われる。

また、韓国の場合、全員男性であった日本の場合と異なり、KFCとKFEの2人は女性政治家であったが、今回の分析からは他称の使用における性差はみられなかった。

3.2. 分析方法

本稿では演説者である政治家本人と聞き手として想定された聴衆以外の第三者に言及するあらゆる表現を他称として認める。まず、日韓の政治家が街頭演説の場面において主に言及する第三者は何であるか、また、どのような

表現を用いて話題に挙げるのかに注目し、その傾向についてまとめる。特に、言及される人物または対象のウチ・ソト関係に注目し、談話分析の手法を用いて用例を挙げつつ考察する。

4. 日韓の街頭演説における他称の使用傾向

本節では、日韓の街頭演説における他称の出現類型とその使用傾向について対照し、両国における他称の特徴についてまとめる。以下の表2は、街頭演説における日韓の他称の使用類型をまとめた結果である。

まず、日本の街頭演説に用いられた他称の類型をみると、「彼」のような三人称代名詞が2回用いられ、複数形は見られなかった。また、名前のみの他称は全部で8回用いられた。これらの他称はすべてウチ集団の第三者に言及する場合に用いられている。具体例は以下の(1)をみられたい。

(1) JMB：皆さん、この橋下徹代表、何もコストを求めているわけで

表2 日韓の街頭演説における他称の類型および使用回数¹⁾

日本	回数	類型	韓国	回数
彼	2	三人称代名詞の単数形	그 (彼)	5
-	-	三人称代名詞の複数形	그들, 저들 (彼ら)	5
橋下徹、松井一郎、北川知克、辻元	8	名前	신 아무개 (シン何某), 박원순 (パク・ウォンスン)	4
平松さん、北川さん、辻元さん、安倍さん、辻元清美さん、奥石東さん	26	名前+さん	-	-
橋下徹前知事、橋下代表、平松市長、酒井議員、松井一郎維新の会の幹事長、松井一郎知事、安倍総理	17	名前+地位名	곽노현 교육감 (クアク・ノヘン教育長), 한명숙 총리 (ハン・ミョンスク総理), 박원순 시장 (パク・ウォンスン市長), 박원순 서울 시장 (パク・ウォンスンソウル市長) 오세훈 시장 (オ・セフン市長), 오세훈 전 시장 (オ・セフン元市長), 이명박 시장 (イ・ミョンパク市長), 이명박 대통령 (イ・ミョンパク大統領), 김대중 대통령 (キム・テジュン大統領), 나경원 후보 (ナ・ギョンウォン候補), 박원순 후보 (パク・ウォンスン候補), 박근혜 후보 (パク・グンヘ候補)	36
-	-	指示詞	그쪽 (そっち) 저쪽 (向こう), 거기 (あっち)	5
その人、そんな人たち、その人たち	3	指示詞+名詞	그분들 (その方たち), 이 정권 (この政權), 이 정부 (この政府), 그 세력들 (その勢力の人たち), 이런 세력들 (こんな勢力の人たち), 그 사람들 (その人たち)	9
国会議員、市会議員さん、人たち、他の政党みんな、我々の父親、祖母、官房長官、内閣大臣、内閣総理大臣、「みんなの党」の候補者、大阪市役所の職員、民主党の当事者、自民党、民主党、民主党政權、小泉政權	23	名詞	상대방 (相手), 다른 후보 (他の候補), 본인 (ご本人), 강권 (巨鯨), 청와대 수석 (靑瓦臺の首席), 가난한 이웃 (貧しい周りの人), 한나라당 (ハンナラ당), 새누리당 (セヌリ당), 문민정부 (文民政府), 국민의 정부 (國民の政府), 참여정부 (参与政府), 이명박정부 (イ・ミョンパク政府), 민주당 (民主黨), 민주당 정권 (民主黨政權), 야당 (野黨)	39

はありません。報酬を求めているわけでもないんです。彼は自分の報酬は30%カットすると言っています。

このように「彼」が指す対象は、自分が支持する立候補者のみであり、ソトの人物には用いられていなかった。また、次の(2)のように名前だけを用いて言及する例もウチの人物にしか見られなかった。

- (2) JMD：北川知克のためでもない自民党のためでもない、それは日本に生まれた個人、この島に生まれたことを喜びに感じ、そして日本に生まれた子どもたちが日本に生まれたことを誇りに思い、その日本を取り戻していくためであります。

上記の(2)のように、ウチ集团のものに言及する際は、フルネームを用いる傾向がみられた。市長選挙の応援演説では応援する候補に言及する場合、フルネームか、名字に地位名などを加えた表現のみ見られ、さん付けは現れなかった。

- (3) JMC：そして今回知事候補には松井一郎維新の会の幹事長が立候補致しました。

このように、応援している候補の名前に地位名などを加えて言及する例は、17回のうち14回で最も多く、ソトのものに対して名前＋地位名を用いる例は少なかった。しかし、当時特定の地位を持たないまま立候補した候補者を称する場合は、以下のように名前にさん付けをする他称が多くみられた。

- (4) JME：辻元さんもわたしもマイクを握って多くの皆さんと膝つき合わせて政策を磨きそして政治活動をやってまいりました。

上記の(4)の他は、相手の候補や対立する政党の党首など、ソトの人物の名前にさん付けをする他称もみられた。

- (5) JME：安倍さんは最近安倍政権と鳩山政権を比べて我々はこんなに経済が良かったと言います。

(5)のJMEは対立候補の支持者である安倍晋三氏(当時自由民主党党首)に言及する際に、名字にさん付けをしている。このように、対立する側のソトの人物に言及する際、誰に言及しているのかははっきり明示する他称がある

一方、「その人」「その人たち」のように、特定せずに言及する例も3回用いられた。

- (6) JMD:『みんなの党』の候補者を『維新』が推してるんですね。
どっちがどっちか分からなくなっている自分で [笑い] それです
すよ。その人はまったく行政の経験も無ければ、政治の経験もほ
とんど無くてこの地域のことだってあんまりよく知りませんよ。

上記の(6)をみると、JMDは同じ選挙区に立候補した対立候補について言及する文脈で実名を挙げず、「『みんなの党』の候補者」または「その人」のように称している。主に、批判を行う文脈で用いられ、特定の人を指してもその人の実名は挙げない傾向が見られた。指示詞を用いた他称には、このように言及される第三者が誰であるか表しながらも特定はしないという特徴がみられた。次に、対立する勢力について言及する際、特定の人物名を挙げず、その人物の所属政党名を用いる傾向も現れた。

- (7) JMD:もちろん雇用も作って皆さん、わたしたちを一緒に頑張った人が報われる、流した汗が報われる、真っ当な経済を作っている
こうではありませんか。それができるのは残念ながら民主党では
ない。自由民主党と公明党です。

(7)のJMDは、自由民主党の所属であり、対立する側として相手の政党名に言及している。選挙の際、立候補者個人はもちろん、その人が属している政党も有権者にとって重要な判断要因となる。そのため、人物だけではなく、政党名のような集団で表すことは政治談話における戦略の一つとして考えられる。

次に、韓国の場合、三人称代名詞単数の「그 (彼)」は計5回現れ、全てウチの人物に言及する際に用いられていることが分かった。しかし、三人称代名詞の複数形である「그들・저들 (彼ら)」²⁾の場合は、全てソトの人物を表すものであった。具体例は以下の(8)をみられたい。

- (8) KMB: 박원순 후보, 박원순 시장. 매우 훌륭한 분이지만, 그 역시
인간입니다. 때로 실수도 하고 본의 아니게 박원순을 해꼬지하

려는 바로 그들에게 공격의 빌미를 주는 실수를 하게 될 수도 있습니다.)

(パク・ウォンスン候補、パク・ウォンスン市長。とても素晴らしい方ですが、彼もやっぱり人間です。時には失敗もするし、意図せずパク・ウォンスンを害そうとする彼らに攻撃の材料を与えるミスをするかもしれません。)

上記の(8)をみると、KMBは自分が応援している候補であるパク・ウォンスンについて言及しながら「彼」という三人称代名詞を用いている。また、パク・ウォンスンと対立する勢力に言及する際は、特定化せず、「彼ら」という三人称代名詞の複数形で示していることが分かる。今回の分析に用いた街頭演説のデータからは、三人称代名詞の複数形はソトの不特定多数のみを指す傾向がみられた。また、敬称などを省略し、名前のみだけを用いて言及する他称は4回用いられているが、このうち3回がウチの人物を表すものであった。ソトの人物を名前だけで言及する際は、フルネームではなく、名字だけを示し、名前は「何某」のように表す例が1回現れた。

(9) KMA : 지금 이 정권의 실세중에 한 사람이었다고 하는 신아무개라는 차관이 지금 검찰에 구속영장이 청구돼있는 상태죠?

(今、この政権の実勢のうち一人だったというシン何某という次官が今、検察から逮捕状が発布されている状況でしょう?)

今回の調査からは、ソトの人物に言及する際、名前のみ他称は現れず、上記の(9)のように、「何某」などを用いて、間接的にほのめかすような他称を用いていることが分かった。また、以下(10)のようにフルネームに地位名などを加えて言及する他称もソトの人物に対して用いられていた。

(10) KMD : 같은 새누리당 안에서 이명박 대통령 임기가 끝나니까 제 2인자에게 대통령직이 넘어가는 것, 그게 정권교체입니까? 그냥 권력 교대죠. 박근혜 후보가 되면 권력 교대, 저 문재인이 돼야 정권교체, 맞습니까?

(同じセヌリ党の中でイ・ミョンバク大統領の任期が終わったら

その次席のようなものに大統領職が渡されること、それが政権交代ですか？ただの権力交代でしょう。パク・クネ候補が当選したら権力交代、わたくしムン・ゼインが当選したら政権交代、合ってますか？)

このように「名前＋地位名」の他称は、計 36 回のうち、12 回がソトの人物に対して用いられており、24 回はウチの人物に対して用いられていた。この場合に用いられた地位名をみると、現在の地位ではなく、当選した結果の地位名で表す傾向がみられた。以下の (11) をみられたい。

- (11) KMB : 박원순 서울 시장이 우리가 알고있던 그 박원순인한 사람이 바뀌어서 한나라당 당원처럼 되어버리지 않는 한, 끝까지 함께 믿고 사랑하면서 지켜나갈 것입니다.

(パク・ウォンスンソウル市長が私たちの知っていたそのパク・ウォンスンである限り、人が変わってハンナラ党の黨員みたいに変わらない限り、最後まで一緒に信じて愛しながら守っていきます。)

(11) をみると、KMB はソウル市長選挙に立候補したパク・ウォンスン候補の応援演説を行っているが、用いられた他称をみると、すでに「ソウル市長」という地位名を加えて言及している。一方で、指示詞を用いて第三者に言及する他称も現れた。以下の (12) をみられたい。

- (12) KFC : 그래서 우리가 검증하자고 이야기했습니다. 그랬더니요, 거긴 대답을 잘 안 하더니요, 정말 네거티브 비판을 했습니다.

(だから私たちは{相手の公約について}検証しようと話しました。そうしたらですね。あっちはちゃんと返事をしなくてですね。本当にネガティブな批判を続けました。)

上記の (12) をみると、KFC は方向指示詞を用いて、自分と対立する勢力について批判している。このように、方向を表す指示詞の他称は、全てソトの関係にある第三者を指す際に用いられていた。また、「그분들 (その方たち)」、「그 세력들 (その勢力の人たち)」、「그 사람들 (その人たち)」のよう

な「指示詞＋名詞」型も同じく、ウチではなくソトの人物を指す場合のみ用いられていた。

最後に、名詞を他称として用いる場合は、「상대방 (相手)」、「다른 후보 (他の候補)」、「본인 (ご本人)」のように、対立する候補個人を指すものから、「○○党」のように、ソトの人物が所属している政党名に言及するものもあった。

以上の結果から日韓の特徴をまとめると、以下の(A)～(E)のようになる。

- (A) 三人称代名詞の単数、名前のみの他称は、ウチの人物に対して用いる傾向が強い。一方、三人称代名詞の複数は、日本では用いられず、韓国にのみ使用がみられたが、全てソトの人物に言及するものであった。
- (B) 名前に敬称を加えた他称は日本にのみ観察され、「名前＋地位名」は、日韓ともにウチ・ソトに関係なく用いられていた。
- (C) 「指示詞」について見ると、方向を表す指示詞を他称として用い、対立関係にあるソトの人物を示す傾向は韓国にのみみられた。
- (D) 「指示詞＋名詞」の場合、日韓ともにソトのものに言及する際に用いられており、第三者を明確に表さず、ほのめかすように表現していることが分かった。
- (E) 「名詞」の場合は、対立する候補が属している政党名や現在、政権を握っている政府などを第三者として言及する例が日韓ともに多かった。

次の5節では、本節で述べた分析結果をもとに、各々の他称がどのようなレトリックストラテジーとして用いられているのかについて考察を行う。

5. 日韓の政治談話における他称のレトリックストラテジー

5.1. ウチの人物を言及する際のストラテジー

政治演説は相手に自分または自分の味方となるものをアピールし、有権者

である聴衆に支持してもらうことが重要なストラテジーになりうる。本節では、日韓の政治家がそれぞれどのように第三者に言及しているか、主にウチ関係にある対象を取り立てる際のストラテジーについて述べる。以下の5.1.1節では、応援する候補者の名前をフルネームで言うストラテジーについて、5.1.2節では、演説者の任意で先取りした地位名を加える際のストラテジーについてみていく。最後に、5.1.3節では、反復的に言及し、第三者を目立たせるストラテジーについて例を挙げながら考察する。

5.1.1. フルネームを用いて応援する候補を覚えさせる

選挙演説は、大きく立候補者本人の演説と立候補者への支持を集めるために行われる応援演説の2種類に分けられる。今回分析に用いた街頭演説にも両方が含まれていたが、応援演説の中に用いられた他称では、敬称や地位名などを省略し、立候補者のフルネームのみを用いる例がしばしばみられた。以下の(13)から(15)をみられたい。

- (13) JMB：しかし、橋下徹は市長になったら30%の報酬をカットする、退職金を半減するこれをマニフェストでかけます。
- (14) JMC：ですから松井一郎というのは何もかも橋下徹のいいなりではなく一緒にこの大阪府を改革してきた我々の同志であります。
- (15) KMB：그들의 마수로부터 우리가 사랑하는 박원순을 지키기 위해서 우리는 두 가지를 해야합니다.
(彼らの魔手から私たちが愛するパク・ウォンスンを守るため、私たちは2つをやらなければなりません。)

上記の(13)から(15)は全て日韓の応援演説であるが、3人の政治家はいずれも、自分が応援している候補に言及する際にフルネームを用いている。このように、フルネームで応援する候補に言及する例は、主に立候補者を誉めたり、正当性をアピールしたりするような文脈で用いられていることが分かった。(13)でJMBは、退職金を半減するという立候補者のマニフェスト

について、強調して語っている。他の文脈では「橋下徹前知事」や「彼」のような他称を用いているのに対してこの場面では、フルネームのみで立候補者の名前を聴衆にはっきり伝えている。(14)のJMCの演説でもJMCが応援する立候補者がしっかりした正当性を持つ人物であることを語る文脈で、フルネームを用いている。韓国の街頭演説でも、(15)のKMBの発話をみると、KMBは自分が応援している候補を守る方法を紹介し、聴衆の協力をもとめる文脈で立候補者の名前に敬称や地位名などを付けず、フルネームで言及している。このような他称の使用は、有権者に投票してもらうという選挙演説のもっとも重要な目的と関わるものであり、演説を聞いている聴衆に、自分が応援している候補の名前をはっきり覚えさせ、アピールするストラテジーとして働くと考えられる。

5.1.2. 先取りした地位名を用いて聴衆にアピールする

先取りした地位名を用いた他称とは、ある選挙に出馬し、まだ当選していないにも関わらず、まるで当選したかのように地位名を先取って言及することである。日韓ともにこのような他称の使用がみられたが、市長選挙に立候補した候補の正式な地位は「〇〇候補」であるのに、市長という地位名を先取って「〇〇市長」と言及する例がしばしば見られた。具体例は以下の(16)と(17)をみられたい。

(16) KMB: 박원순 시장、매우 훌륭한 분이지만, 그 역시 인간입니다.
(パク・ウォンスン市長、とても素晴らしい方ですが、彼もやっぱり人間です。)

(17) JMC: ですからもし橋下市長になればそういった組織を守れ、守れなくなる。ですから今回の選挙は市役所を守る、やく、市民を守るんじゃないんです。

上記の(16)と(17)で言及されている立候補者たちは、いずれも市長選挙に出馬した状況であり、まだ当選しているわけではなかった。しかし、二人の応援演説を行ったKMBとJMCは候補者の名前の後に、任意で「市長」

という地位名を加えて言及している。このようにまだ当選していない候補に、当選後の地位を先取りして意図的に用いることで演説を聞いている聴衆に向かってその候補者が選挙で市長になる資格が十分であることをアピールすることが出来る。つまり、仮の地位名を加えた他称はその人が市長に値する人物であり、その地位に就くことの正当性が十分であるということを認識させ、支持を得ようとするための戦略として用いられている。

5.1.3. 繰り返し言及することにより目立たせる

他称の使用は自分が応援する候補者を聴衆に認識させ、アピールすることにより、得票に繋げるという目的をもっている。本節では、他称を反復して使用し、ウチの人物を目立たせる戦略についてみていく。以下の(18)と(19)は、日韓の代表例を示したものである。

(18) JMD : 北川知克、北川知克、北川知克、北川知克、北川知克、北川知克、よろしくお願いを申し上げます。

(19) KMB : 존경하는 서울 시민 여러분. 야권 단일후보 박원순을 사랑해주셔서 감사합니다. 이 선거를 시작한 뒤로 늘, 늘 행복했다고 말씀하시는 우리 박원순 후보님. 우리 행복한 표정을 짓고있는 우리 박원순 후보님을 볼 때, 저도 한편으로는 행복감을 느끼지만 다른 한편으로는 그의 앞길에 놓여있는 시련, 위험, 그가 극복해야 할 장애 이런 것들을 생각할 때, 저는 박원순 후보가 좀 걱정이 됩니다.
(尊敬するソウル市民の皆さん、野党の単一候補であるパク・ウォンスンを愛してくださり、ありがとうございます。この選挙を始めて以来、いつも、いつも、幸せだったとおっしゃる woori パク・ウォンスン候補。Woori 幸せな表情をしている woori パク・ウォンスン候補をみる時、わたくしも幸せを感じますが、一方では彼の前に置かれている試練、危険、彼が乗り越えなければならない障害、このようなことを考えると、わたくしはパク・ウォンスン候補がちょっと心配です。)

まず、(18)のJMDは演説の終わりに、自分が応援している立候補者の名前を数回繰り返して言及している。このような他称の反復的な使用は、聴衆が投票する対象が誰であるか、その名前をはっきり覚えさせることができる。また、(19)のKMBは、(18)のように連続して言及しているわけではないが、「パク・ウォンスン」→「woori³⁾パク・ウォンスン候補」→「パク・ウォンスン候補」のように、立候補者に言及する他称を切換えながら繰り返している。一つの文脈の中で、このように反復的に立候補者の名前に言及することは、言及されるウチの人物を目立たせると同時に、聴衆の注意をひきつけるストラテジーとして働きうる。

5.2. ソトの人物に言及する際のストラテジー

ソトの人物を指す他称をみると、対立する候補の名前に直接言及する例は少なく、その人が所属している政党ないし集団を挙げることが多かった。また、指示詞を用いて、言及する対象を特定化せずに表す他称の使用も目立った。

以下、5.2.1節では、ウチの人物を言及する際とは異なり、相手、つまり対立する候補の名前に言及せず避けるストラテジーについて述べる。次に、5.2.2節では、韓国の街頭演説にみられた方向指示詞を用いて対立関係であることを強調するストラテジーについて明らかにする。最後に、5.2.3節では、ソトの人物に対する批判の文脈で「指示詞＋名詞」などの他称を用い、ほのめかす際のストラテジーについて考察する。

5.2.1. ソトの人物の名前を挙げず、直接の言及を避ける

街頭演説の場合、立候補者本人の演説であれ、応援演説であれ、有権者の支持を求め、選挙に勝つという目的は同じである。そのためには、ライバルである対立候補よりも多く投票をしてもらうことが重要となる。このような背景を基に行われる街頭演説では、ソトの人物をどのように言い表すかが一つのストラテジーになりうる。前述した5.1節では、ウチの人物を敢えて目

立たせるストラテジーについて確認したが、ソトの人物に言及する際は、相手の名前を挙げず、直接言及することを避けるような他称が多く用いられている。具体例は以下の(20)と(21)をみられたい。

- (20) KFC：그런데 그러한 새 정치의 바람, 바람은 여러분들
저는 했는데요, 상대방은 좀 이상하죠? 그쵸? 제가 계속 말씀 안
드려도 되죠?

(しかし、そのような新しい政治への願い、願いは皆さん私はしましたけど、相手はちょっとおかしいですね? でしょう? 申し上げ続けなくてもいいでしょう?)

- (21) JME：『みんなの党』の候補者を『維新』が推してるんですね。
どっちがどっちかわからなくなってる自分で {笑い}

上記の(20)をみると、KFCは自分と対立する候補のことを「상대방(相手)」というふうに言及している。このように、対立する候補の名前に言及せず、直接言及を避けた他称は他にも、「他の候補」「ご本人」などが用いられており、いずれもライバルである立候補者を目立たせず、言及していることが分かった。日本の演説でも上記の(21)のように、対立候補の名前には直接言及せず、「〇〇党の候補者」のような他称を用いて表現している。このように直接の言及を避ける場合には、指示詞を用いて複数の勢力を示すことも可能であるが、主に相手への批判を行う文脈で用いられていた。これに関しては、以下の5.2.2節で詳しく述べる。

5.2.2. 批判の対象をほのめかすことによるリスクの軽減

5.2.1節と同じく、ソトの人物または集団に対する批判を行う際も、直接の言及を避けた他称を用いて、批判の意を暗に示すことができる。例えば、「指示詞+名詞」型や「党名」などを用い、言及対象を個人に限定しないことにより、批判の対象を間接的にほのめかせる。具体例は以下の(22)から(23)をみられたい。

- (22) JME：お父さんが政治家だから、おじいさんが政治家だから2世

3 世ルパンじゃあるまいし、そんな人たちが庶民のための政治を実現できるとは思えません。

- (23) KME : 허위 사실로 국민을 속이고 인터넷을 도배하는 이런 사람들. 하나를 보면 열을 안 다고 무슨 거짓말은 못 하겠습니
 까? 이렇게 맨날 흑색선전하려고 머리 짜내느라고 민생을 돌볼 시간도 없을 것입니다. 그 사람들은.
 (根拠のないことで国民を騙し、ネット上に嘘を書き続けるこんな人たち。一を聞いて十を知ると言うように、いくらでも嘘が言えるのではないのでしょうか?こんなに毎日、悪宣伝に夢中で庶民の面倒を見る時間もないですよ。その人たちは。)

まず、上記の(22)のJMEは、政治の世襲問題について指摘し、代々受け継いできただけでは国民のためにならないことを糾弾している。ここで、批判の対象となっているものは、対立する政党に所属している政治家であるが、名前などに直接言及するのではなく、「そんな人たち」のような「指示詞+名詞」型を用い、批判を行っている。次に、(23)のKMEの発話をみると、大統領選挙に立候補した自分を攻撃している勢力に対する非難を行っているが、自分と対立するソトの人物を不特定多数として表している。このように、ソトの人物である第三者に言及しつつも、その人が誰であるかについて特定化しない他称を用いることにより、批判に伴うリスクを減らすことができる。

5.2.3. 対立関係を強調し、ソトのものを遠ざける

韓国の街頭演説では、方向を表す指示詞を用い、ソトの人物に言及することにより、対立関係であることを強調する他称が用いられている。具体例は、以下の(24)と(25)をみられたい。

- (24) KFC : 여성후보 저 하나 당해낼려구요. 저쪽의 대선주자 다 총출동했습니다.

(女性候補である私一人を相手するために、向こうの大統領選挙

立候補者は全員総出動しています。)

上記の(24)でKFCは、方向を表す指示詞である「저쪽(向こう)」を他称として用いている。このような他称は、演説を聞いている聴衆と自分を「こちら」という同じ方向に存在するものと扱うため、対立する側の勢力との距離を遠ざけることができる。ここで、もう一つの例をみられたい。

- (25) KMD: 그쪽은 뭐 걸핏하면 중북이니, 애국가 부르니 안 부르니 그렇게 국가관, 애국 그죠? 보수 전유물인 것처럼 그렇게 주장하지 않습니까? 실제로 그럴까요?

(そっちはまあ、ともすれば、北朝鮮に従っているとか、国歌を歌わないとか、そのようなことが国家観、愛国だと、でしょう? まるで保守だけのものかのように、そう主張しているじゃないですか? しかし、本当にそうですか?)

上記の(25)でKMDは、自分への批判を行うソトの勢力について言及する中で、「그쪽(そっち)」という方向指示詞を用いている。この例(25)に用いられた「그쪽(そっち)」の場合は、一般的に対面している聞き手に向かって用いることが多いが、KMDは対立政党であるソトのものを指す場面で用いている。ここで用いられた「그쪽(そっち)」は、三人称代名詞の複数形である「彼ら」と意味的に同じ役割を果たすものであり、ソトの人物との対立関係をより明確に表す戦略として働いている。

6. まとめ

本稿では日韓の政治談話における他称のレトリック戦略について考察した。従来、人称表現に関する先行研究では、他称は自称・対称表現に比べ、相対的に重要度の低いものとして扱われる傾向が強かった。しかし、本研究で分析した政治談話の場合、ウチとソトの人物を考慮した他称の選択が行われていることが明らかになった。以下、本稿で明らかにしたことを、もう一度まとめる。

- (a) 街頭演説の場面において、三人称代名詞の言及対象は、単数形の場合は「ウチの人物」、複数形の場合は「ソトの人物」に分けられる。
- (b) 「名前」のみを用いた他称は、主に「ウチのもの」に言及する際に用いられ、ソトに対しては用いられない。一方、日韓ともに「名前+地位名」の他称は「ウチ・ソト」に関係なく用いられる。
- (c) 日韓政治談話では、批判の対象をほのめかし、言及することによるリスクを軽減させるストラテジーとして「指示詞+名詞」を用いている。しかし、指示詞の中でも方向指示詞は、韓国でのみ用いられており、ソトの人物との対立関係を強調するストラテジーとして使用されていた。

[注]

- 1) 表2のイタリック表記は、「ウチ集団」を表す。
- 2) 韓国語の「그들」と「저들」はいずれも三人称代名詞の複数形であり、日本語訳の一つとして「彼ら」がある。これらは主に、「그들」は文脈指示、「저들」は現場指示で用いられるが、本稿では、「그들・저들」共に文脈指示として用いられたことから「彼ら」という訳に統一する。
- 3) 韓国語の「woori」は日本語の「私たち」に該当する一人称代名詞の複数であるが、その用法においては異なりがある。例のように、人名の前に「woori」が用いられた場合は、自称詞としては働かず、言及される対象との心的距離が近いことをマークする特殊な機能をもつ。

[参考文献]

- 林炫情・深見兼孝(2004)「他称詞と述語にみられる待遇法に関する日韓対照研究」『国際協力研究誌』10-2, pp.13-27, 広島大学大学院国際協力研究科
- 高木裕子・宋善花(2012)「対称詞の待遇性による使用制限—日本語・朝鮮語・中国語の社会言語学的対照の観点から—」『実践女子大学人間社会学部紀要』8, pp.35-48, 実践女子大学人間社会学部
- 鄭惠先(2002)「日本語と韓国語における人称詞の使用実態—アンケート調査の分析結

- 果から見る頻度差と用法の相違—」『計量国語学』23-7, pp.333-346, 計量言語学会
- 三輪正 (2000) 『人称詞と敬語—言語倫理学的考察—』人文書院
- Denton, Robert E., Jr. (1982) *The Symbolic Dimensions of the American Presidency*. Prospect Heights,.:Waveland Press,1982.

(大学院博士後期課程学生)

SUMMARY

An Analysis of Political Discourse in Japan and Korea: Focusing on Terms Referring to Third Person as a Rhetorical Strategy

Ah-reum HAN

In this paper I discuss a rhetorical strategy found in political discourse in the Japanese and Korean languages. Regardless of language, political discourse creates a similar linguistic context, as its objective is always to arbitrate between different opinions or opposing views. Hence, research on political discourse in Japanese and Korean can help in the understanding of the social environments of the two countries and the speech styles constructed within these environments. This study used data from street oratory in Japan and Korea, and focused on terms referring to third person being used as rhetorical strategy. The results of the study revealed the following:

- (A) On a street oratory in Japan and Korea, terms referring to the third person singular were used when the speakers referred to "in-group people". The plural, on the other hand, was used to refer to "out-group people".
- (B) In the case of Japanese, "-san" was used when they refer to the third person. In Korean, however, "-ssi" was not used.
- (C) In Korean, a deixis which expressed direction was used as a strategy to emphasize an antagonistic relationship with "out-group people".
- (D) In both Japanese and Korean, "name + status name" was used to refer to "in-group people" and "out-group people"
- (E) Also, in both languages "deixis + name" was used as a strategy to indirectly criticize someone, or, to 'reduce the burden' of the criticism.